

加賀における古代祭祀 - 木製祭祀具を中心として -

向井 裕知（金沢市埋蔵文化財センター）

加賀においては北加賀で木製祭祀具の出土が際だっており、中でも人形や馬形などが多く出土している金沢市内の4遺跡について取り上げ、その出土状況等についてみていきたい。

まず8世紀中頃～9世紀代を主体とする上荒屋遺跡は、東大寺領横江荘との関係が指摘されている古代荘園遺跡で、推定荘家建物跡に隣接する河川跡から大量の墨書土器を含む土器・陶磁器や木簡などと共に斎串や人形、馬形などの木製祭祀具が出土している。荘家建物は9世紀初頭から前葉にかけて河川に沿って西から東に移転するが、それに伴い川への遺物廃棄位置も動く傾向にあり、出土地点から大凡の年代推定が可能である。その出土状況から荘家の隣接河岸にその時期の被所を想定することが可能であり、同時に人形の撫で肩タイプから怒り肩タイプへの変遷が指摘できる。

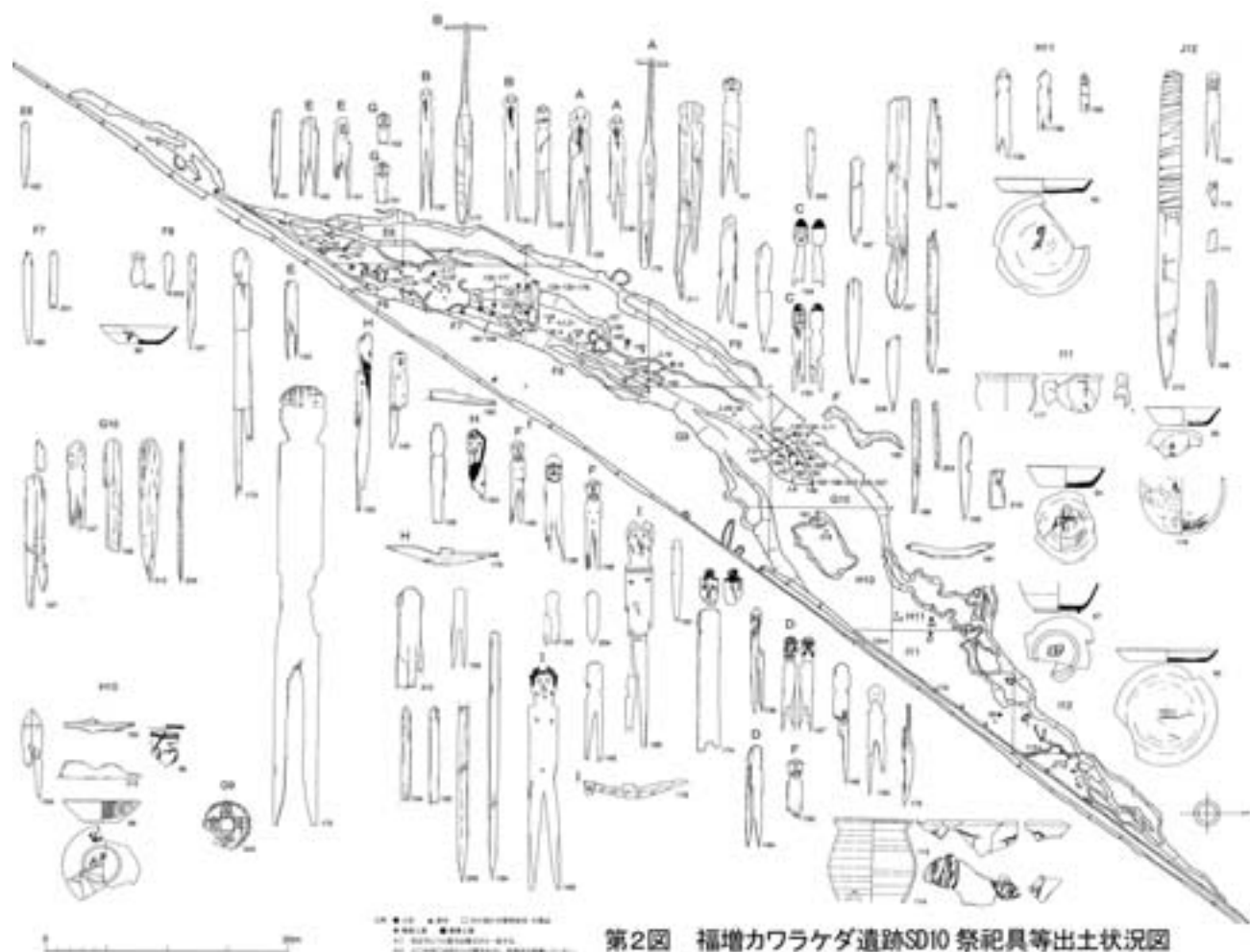
上荒屋遺跡の近隣に所在する福増カワラケダ遺跡は、9世紀を主体とし、白山市横江庄遺跡・庄家推定地（以下庄家推定地）に隣接する。河川跡から木製祭祀具が大量に出土しているが、主に庄家推定地の所在する東岸から出土しているので、その被所に該当する可能性が指摘できる。出土状況から2対もしくは3対の人形の組み合わせが想定できるが、それらと臙形？・馬形といった交通や運搬に関係した形代との組み合わせも想定可能である。また、長さ722mmという特大型人形の存在も特筆できる。なお、人面？墨書土器が出土しているが、木製祭祀具とは出土位置が異なっているため、使用の場（祭祀）の違いが想定でき、それぞれを用いる祭祀行為は直接的には連携しない可能性が高い。

官衙関連遺跡とされる9世紀主体の戸水大西遺跡では、河川跡から木製祭祀具が出土しているが、その出土状況から2ヶ所の被所が想定されている。また、人形と斎串では集中地点が異なる場所があり、やはりそれぞれの使用の場（祭祀）の違いを示しているものと考えられる。なお、人形は撫で肩が少なく、怒り肩となるタイプが多いために、同タイプが9世紀代の特徴を示すものと考えられる。

同じく官衙関連遺跡とされ、9世紀主体の磯部カンダ遺跡では、胴体部に「阿閉東吉」・「丈マ阿古女」・「□□道□」といった人名墨書をもち、かつ頭部には木釘を打ち込んだ人形が出土している。

以上が木製祭祀具、特に多く出土している遺跡の概略である。これらの遺跡は荘園遺跡や官衙関連遺跡であるが、それぞれ採用する木製祭祀具にはその量や種類に差異が認められる。そして、そのような格上の遺跡においても、木製祭祀具を用いた律令祭祀の痕跡が希薄な場合が多く、むしろ大量の祭祀具を用いる遺跡は限定されている。調査範囲が「被所」に及んでいないということも当然考えられるが、畝田西・東遺跡群といった官衙関連遺跡の大規模調査についても人形の出土は少ない。また、用いられる祭祀具についても遺跡間で組成が異なることから、律令祭祀の受容は画一的ではなく、取舍選択が行われていたものと考えられる。

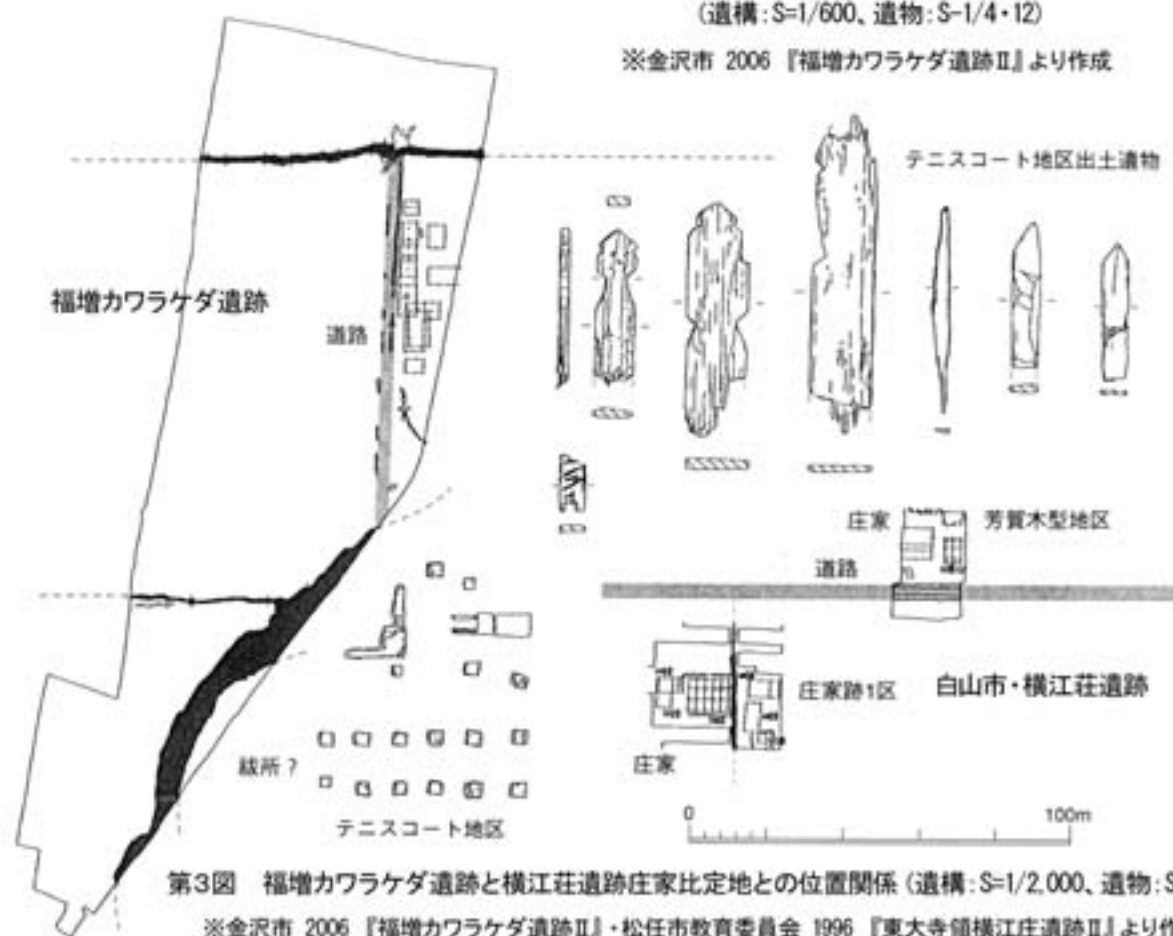
遺跡名	遺構	年 代	斎 串	人 形	馬 形	鳥 形	舟 形	刀 形	剣 形	鏃 形	鋤 形	陽 物	斎 串 ?	形 代 ?	備 考
磯 部 カ ン ダ 遺 跡	SD 16	9・10 c	52	20	1	1	2								
戸 水 大 西 遺 跡	SD 30	9 c	87	31	2		4	1		1					
上 荒 屋 遺 跡	SD 40	8 c 後半～10 c	105	41	4		1	4	1	1	2	1	62	7	
中 屋 サ ワ 遺 跡	SD 30	8 c 後半～10 c	6		2		1	1						2	
	SD 66	8 c 後半～10 c		5									1		
	SD 75	8 c 後半～10 c	1	6											
福増カワラケダ遺跡	SD 10	8 c 末～9 c	31	46	5				1					4	
	SD 60	8 c 末～9 c	1												報告書未掲載
横 江 荘 遺 跡	テニスコート地区	8 c 末～9 c 前半	1	3				1					1	1	福増カ・SD 10 と同じ川



第2図 福増カワケダ遺跡SD10 祭祀具等出土状況図

(遺構:S=1/600、遺物:S=1/4・12)

※金沢市 2006 『福増カワケダ遺跡Ⅱ』より作成



第3図 福増カワケダ遺跡と横江荘遺跡庄家比定地との位置関係 (遺構:S=1/2,000、遺物:S=1/6)

※金沢市 2006 『福増カワケダ遺跡Ⅱ』・松任市教育委員会 1996 『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』より作成